

クロサンショウウオ

Hynobius nigrescens (サンショウウオ目サンショウウオ科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは 12~18cmで、からだの色は背面が暗褐色で個体によっては褐色の様子が散らばります。尾は長く、からだの長さの半分くらいです。

I すみ場所

東北地方、北関東、中部地方北部、福井県北部まで分布し、山麓から2000mの高山や、分布域の北部では沿岸から見られ、南部では1000m以上の山地に多く見られます。落ち葉や、倒木、石の下などに潜んでいます。

I 生活のようす

産卵の時期は4月中旬~7月の雪解けのころで、産卵場所は森林や湿原の隣接する池や沼、水田など水の流れるない場所で産みます。乳白色の卵のう(寒天質の袋)を産みつけ、1つの卵のうには 30~40 個の卵がはいっています。餌はクモや虫、カニなどを食べます。

参 考

「長野県版レッドリスト」で希少な両生類に指定されています。

ハクバサンショウウオ

Hynobius hidamontanus (サンショウウオ目サンショウウオ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは 8~11cmで、からだの色は茶色っぽい下地に、青みがかった模様が体側から前肢と後肢にある大変美しいサンショウウオです。日本固有種です。

I すみ場所

富山県と岐阜県、長野県の白馬村のごく限られた地域にしかすんでいない、極めて珍しいサンショウウオです。富山県では立山町、大山町、八尾町、利賀村の10数地点のブナやミズナラなどの林床にすんでいます。

I 生活のようす

産卵の時期は4~6月です。産卵場所は湿地や林縁の水たまりなどです。多少流れのある水中の枝や落ち葉に卵のう(寒天質の袋)を産みつけ、1つの卵のうには 20~50 個の卵がはいっています。餌はミズや小さな虫などを食べます。

参 考

「環境省レッドデータブック」などで希少な両生類に指定されています。最近では、ヤマサンショウウオと同じ種類ではないかと言われています。春先に林道横の水たまりなどの落ち葉の下に卵のうが見られることがあります。

イモリ

Cynops pyrrhogaster (サンショウウオ目イモリ科)



生態情報

1 からだの特徴

からだの大きさは7~13cmで、背中は黒色または黒褐色でお腹は赤く不規則な黒い模様があります。繁殖期になるとオスは青紫色の婚姻色が尾を中心に現れます。

1 すみ場所

本州、四国、九州に分布し、水田周辺や溜池、河川の淀み、溜まりなどにすんでいます。

1 生活のようす

産卵の時期は4~7月、産卵場所は水中の草や枯葉などに1卵ずつ産卵します。餌は肉食性でオタマジャクシやサンショウウオの幼生、ミミズ、川虫(水生昆虫)などを食べます。

参 考

「レッドデータブックにいがた」で希少な両生類に指定されています。イモリは外敵から身を守るために耳腺から分泌物を出します。イモリを触った手で目をこすったりすると目が開けられないほどの痛みがあります。手で触れたときには必ず手を洗いましょう。

タゴガエル

Rana tagoi (カエル目アマガエル科)



現地撮影

生態情報

1 からだの特徴

からだの大きさは30~50mmで小型のカエルです。からだの色は黒褐色から茶褐色で前肢や後肢はやや太くて短く、ずんぐりした体形をしています。

1 すみ場所

本州、四国、九州にすんでいます。山地から高山帯までの森林や高山、草原などにすみます。

1 生活のようす

繁殖期は3~7月で、産卵は溪流沿いの伏流水、沢の岩などの下で行われ、白い卵を30~160個産みつけます。幼生(オタマジャクシ)は何も食べずに卵黄を栄養だけで育ち、幼体(子ガエル)になります。成体(カエル)は小さな虫やクモ類をとって食べます。鳴き声はグゲーグゲー……と鳴きます。

参 考

山地を代表するカエルですが、隠れているので一般的にはあまり知られていないようです。春先の林道脇の溪流や沢などで、耳をすましてさがしてみてください。斜面の横穴や石の下で鳴くため姿が見えなくても、鳴き声ははっきりとおもしろい声で、わかりやすくよく聞こえます。

トノサマガエル

Rana nigromaculata (カエル目アマガエル科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさは38～94mmで、鼻先が長く、目が横向きになっているため、きつい顔つきをしています。からだの色は、オスが山吹色から緑色の背中に1本の黄色や緑色の縦筋模様が入り、メスは全体に薄く白っぽいからだの色に黒い斑点がまばらに散らばり、背中の縦筋模様も白く目立ちます。オス、メスともにジャンプに適したスマートな体型をしています。

I すみ場所

本州(関東平野、仙台平野を除く)、四国、九州、北海道の一部(人為移入)に分布し、水田や池、湿地、沼、河川にもすんでいます。

I 生活のようす

繁殖期は4～6月で、産卵場所は水田や沼で、つぶれた円形状の卵塊(卵のかたまり)を産み付けます。卵塊中の卵の数は1800～3000個です。餌はクモや虫、小さなカエル、小動物などあらゆるものを食べます。鳴き声はグルルル、グルルル、グゲゲ……と鳴きます。

参考

「レッドデータブックにいがた」で希少な両生類に指定されています。

トノサマガエルの名前の由来は、姿が殿様のように悠然としているところからだと言われています。

モリアオガエル

Rhacophorus arboreus (カエル目アオガエル科)



模様がある個体(有紋型)

現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさはオスが4～6cm、メスが6～8cmでメスのほうが大きいカエルです。からだの色は緑色で、場所によって模様が出るカエル(有紋型)と、出ないカエル(無紋型)があります。指先に発達した吸盤を持ち、木の上での生活に適しています。

I すみ場所

本州、四国、佐渡島に分布し、水田や丘陵部から高山帯まですんでいます。森を代表する木の上すむカエルです。

I 生活のようす

繁殖期は4～7月で池や沼のまわりの木の枝先に白い泡状の卵塊(卵のかたまり)を産みます。卵塊中の卵の数は330～800個です。幼生(オタマジャクシ)は雑食性で植物や虫の死骸などを、成体(カエル)は小さな虫やガ類をとって食べます。鳴き声はコロロ、コロロ、コココ……と鳴きます。

参考

「長野県版レッドリスト」などで希少な両生類に指定されています。木の上に卵を産むカエルは世界的にもめずらしいものです。繁殖は、夜に行われることが多いですが、昼間でも鳴き声が聞かれます。初夏の山では、カスタンネットのような声を探してみてください。

カジカガエル *Buergeria buergeri* (カエル目アオガエル科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

からだの^{おお}大きさはオスが4~7cm、メスが4~8cmです。^{たいけい ひら}体型は平たく、^{ゆびきき きゆうばん}指先に吸盤を持ち、^{うしろあし}後肢のみ水かきを持っています。^{いろ}からだの色は同じアオガエル科のモリアオガエルなどと違い、^{はいかつしよく}灰褐色をしていて、^{みどりいろ}緑色になることはありません。

I すみ場所

本州・四国・九州に分布しています。^{にほんこ ゆうしゆ}日本固有種です。^{けいりゆうぞ}山地の開けた溪流沿いの^{しんりん}森林にすみ、^{がけ}木の上や崖などでくらしします。

I 生活のようす

^{はんしよくき}繁殖期は4~7月で、^{かわら}河原からオスの「フィフィフィフィ」というすんだ美しい声^{やこうせい}が聞こえてきます。^{はんしよくき}夜行性ですが、繁殖期には^{ようせい}屋間でも見ることができます。^{はつたつ}幼生(オタマジャクシ)は^{そうらい}発達した口で岩に吸い付いて、藻類を^くけずり^くって食べます。^{せいたい}成体(カエル)になってからは^く小さな虫やガ類を^くって食べます。

参 考

「レッドデータブックにいがた」で^{きしょう りようせい}希少な両生類として^{してい}指定されています。^{けいりゆう けいりゆうぞ}溪流や溪流沿いに生活し、^{けいこく かせん}きれいな溪谷や河川の^{だいひょうてき どうぶつ}代表的な動物です。^{え どじだい}江戸時代には^{びせい}美声を楽しむために^{かご}籠に入れて^{しいく}飼育して^{くら}鳴き声比べをした^{りゆうこう}ほど流行したと言われています。